環境再生プラザ

個人線量計による測定結果について

- 測定機器　個人線量計　型式 ＤＯＳＥｅ nano　　機器No,65
- 測定期間　2019年8月31日　1時05分　～　9月4日　16時00分

累計時間　110時間55分

1．結果およびグラフの見方

- 縦軸：μSv（マイクロシーベルト）、横軸：時刻

  ＊シーベルト（Sv）：人が受ける放射線被ばく線量・各グラフは1分ごと（図1）、1時間ごと（図2）、　累計積算線量（図3）を示しています。
- 図3は、測定を開始してから終了までに、自分が受けた放射線量の合計を表します。
- 受けた放射線量はどれだけの線量の場所に、どのぐらいの時間滞在したかで異なります。累計積算量では急に上がらないことがグラフよりわかります。

2．結果に基づく推定

今回の行動パターンから一年間の外部被ばく線量を仮に推定すると以下のようになります。

- 測定結果　累計　0.00682　ミリシーベルト
- 1年間の推定値　：　0.54　ミリシーベルト

推定値 ＝　（測定値/測定時間　×　24時間　×　365日）

＝　0.00682　ミリシーベルト/　110時間55分　×　24時間　×　365日

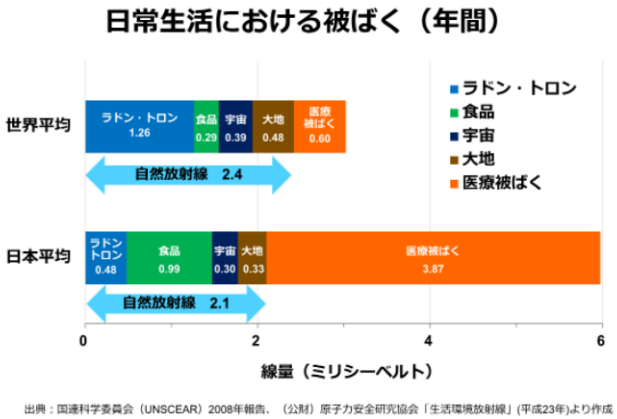
＝　0.54　ミリシーベルト＊

＊推定値には、事故がなかった場合でも大地から受ける放射線量を含みます。

参考：大地から受ける放射線量0.33mSv／年（下図：日常生活における被ばく（年間））

3．その他 グラフを見るにあたってのご参考

■ 年間あたりの被ばく線量の比較



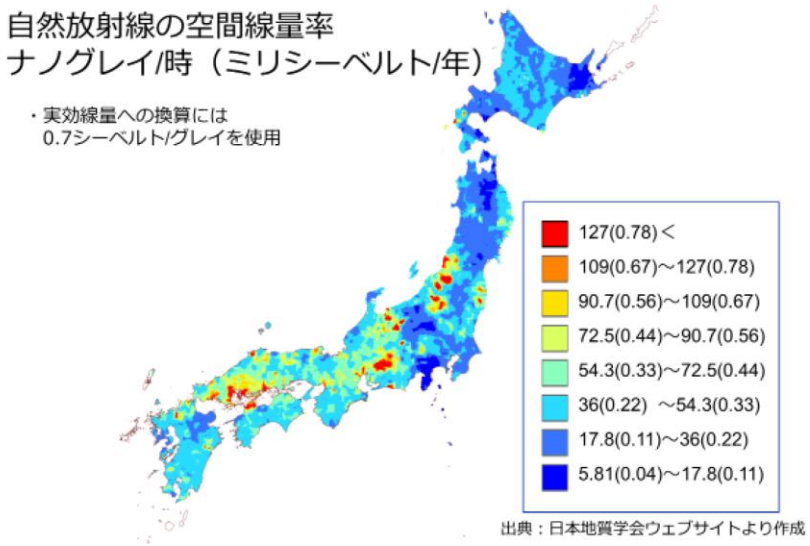
１年間に受ける日本人の平均被ばく線量は5.98ミリシーベルトであり、そのうち2.1ミリシーベルトが自然放射線からの被ばくであると推定されています。

※出典：「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料 平成30年度版」　P66より

■ 大地の放射線（日本）

国内でも、大地からの放射線量が高い所と低い所があります。県単位で比較すると空間線量率は、最も高い岐阜と最も低い神奈川では年間0.4 ミリシーベルトの差があるといわれています。

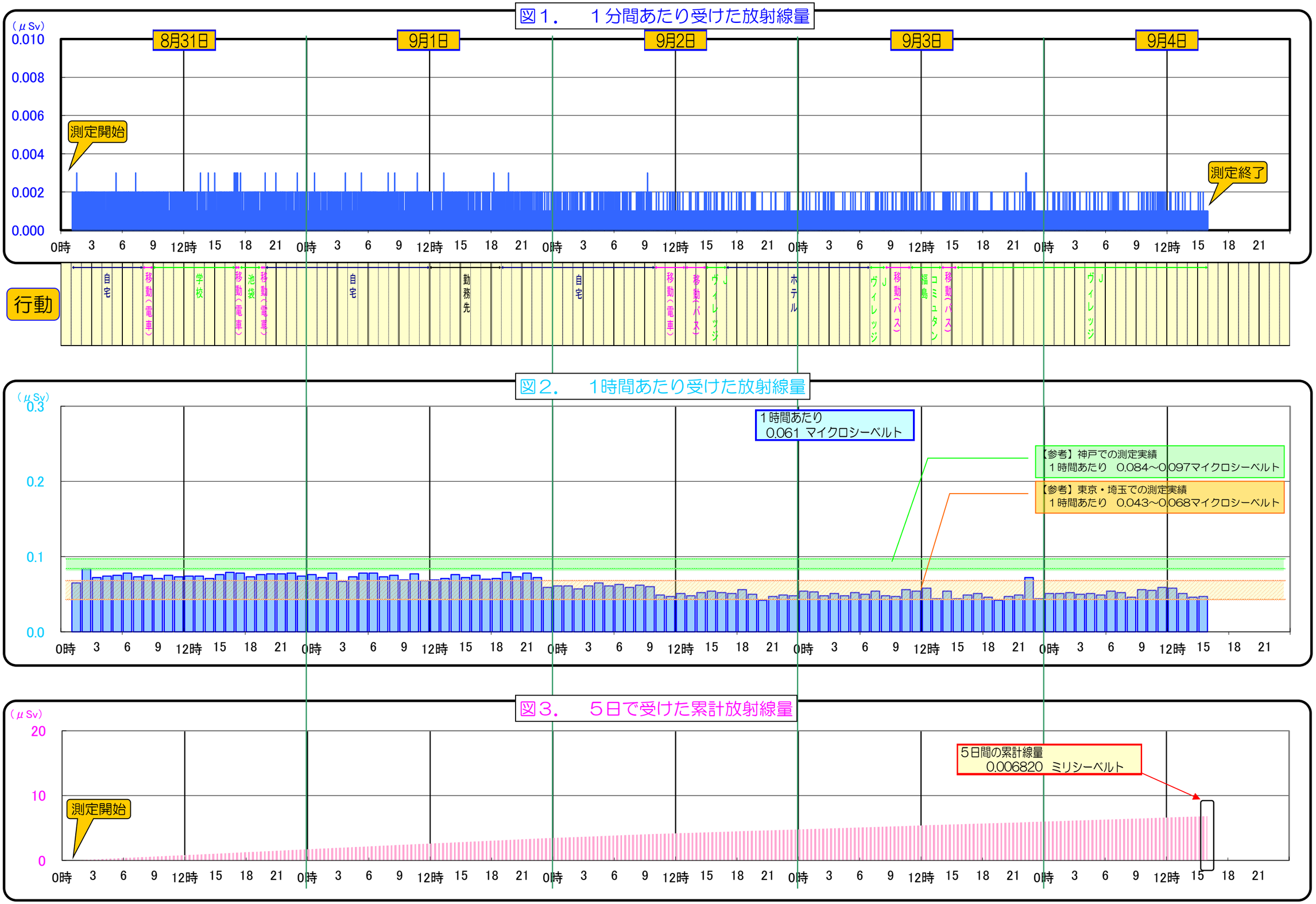
関東ローム層が大地からの放射線を遮へいする関東平野では、概して大地からの放射線量は少なくなっています。一方、花崗岩には、ウラン、トリウム、カリウム等の放射性核種が比較的多く含まれていることから、花崗岩が直接地表に露出している場所が多い西日本では、東日本より1.5 倍ほど大地からの放射線量が高い傾向があります。



※出典：「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料 平成30年度版」　P69より

Jヴィレッジ No,65　測定期間　2019年8月31日　1時05分　～　2019年9月4日　16時00分

環境再生プラザ

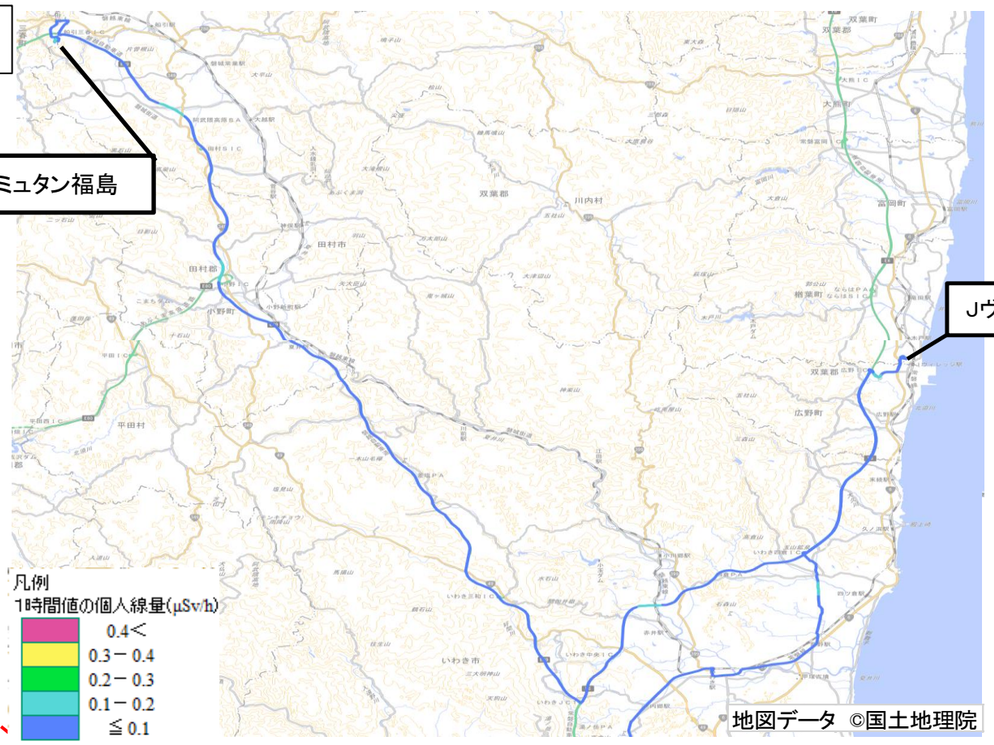


個人線量計（DOSE　e）＋GPSロガーによる測定

測定日	2019年8月31日　7:29～9月3日　10:33
測定機器	Dose e nano（No. 65）

凡例
1時間値の個人線量(μSv/h)
- 0.4<
- 0.3－0.4
- 0.2－0.3
- 0.1－0.2
- ≦0.1

拡大図



凡例
1時間値の個人線量(μSv/h)
- 0.4<
- 0.3－0.4
- 0.2－0.3
- 0.1－0.2
- ≦0.1

拡大図

凡例
1時間値の個人線量(μSv/h)
- 0.4<
- 0.3－0.4
- 0.2－0.3
- 0.1－0.2
- ≦0.1